



平成28年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ランシステム

コード番号 3326 URL <http://www.runsystem.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 日高 大輔

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 面高 英雄

TEL 03-6907-8111

四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第1四半期の業績(平成27年7月1日～平成27年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第1四半期	2,075	4.3	107	91.5	108	44.1	61	62.8
27年6月期第1四半期	1,990	△0.5	56	△57.1	75	△48.4	37	△31.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年6月期第1四半期	30.13	—
27年6月期第1四半期	18.51	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
28年6月期第1四半期	4,958	—	2,048	—	41.3	1,003.70
27年6月期	4,812	—	1,988	—	41.3	974.30

(参考) 自己資本 28年6月期第1四半期 2,048百万円 27年6月期 1,988百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
27年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年6月期	—	—	—	—	—
28年6月期(予想)	—	0.00	—	—	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成28年6月期の期末配当予想については未定です。

3. 平成28年6月期の業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,200	3.0	200	△14.3	200	△27.4	80	△9.0	39.20

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年6月期1Q	2,070,900 株	27年6月期	2,070,900 株
28年6月期1Q	30,300 株	27年6月期	30,300 株
28年6月期1Q	2,040,600 株	27年6月期1Q	2,040,600 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この第1四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく監査対象手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
なお、業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、政府による財政・金融政策の影響により、企業収益や個人消費に改善が見られ、緩やかな回復基調が続いております。

このような経営環境のもと、当社は「顧客満足の追及と基本の徹底」を念頭に店舗環境の改善に注力し、新規業態店舗や新規取引の開拓に取り組み、新たな収益創出に向けた組織力の向上に努めて参りました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高2,075百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益107百万円(同91.5%増)、経常利益108百万円(同44.1%増)、四半期純利益61百万円(同62.8%増)となりました。利益の主な増加要因は、店舗運営事業「スペースクリエイティブ自遊空間」店舗において、より高い稼働率となるコンテンツへの入替等、設備のブラッシュアップによって店舗の売上が好調に推移したこと、及びその他事業におけるシステム外販案件の取引が増加したことなどによるものであります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

<店舗運営事業>

当事業につきましては、複合カフェ「スペースクリエイティブ自遊空間」チェーンにおいて設備やサービスの拡充、イベントの企画運営を図り、集客力の高い店舗開発と、より快適な空間を提供できるよう一層のサービス向上に努めております。店内設備においては、日々のお客様のニーズに合った環境を整えるため店内の改装を実施し、デラックスブース等の稼働率の高いブースに入れ替えを順次行っております。また、人気コンテンツである最新オンラインゲームやカラオケ、ダーツの新機種を導入によって常に新鮮な店内を提供します。ダーツやビリヤードの大会を定期的に開催しており、地域のコミュニティ活性化に向けて近隣店舗との合同開催による大会も実施しております。また、ソフト面においては、サービスの質的向上を図るため、「基本の徹底」を念頭におき、店舗スタッフのサービスレベル、ホスピタリティレベルの向上に向けた教育・研修を実施し、店舗でのOJTや講義を通じて従業員の接客力を底上げしております。

自遊空間ブランド以外の展開として、平成27年7月に「アミューズメントカジノ ジュー」を新規出店いたしました。ジューは「for the good smile」を基本コンセプトとした店舗で、ポーカーやブラックジャック等のカジノゲームを通して、お客様同士やお客様と従業員とのコミュニケーションを創出する新たなアミューズメントスポットとして運営しております。

今後も当社は新規事業の開発・出店に注力し、新たな店舗を自遊空間事業に続く主力事業として成長させるべく努めて参ります。

当第1四半期会計期間末時点では177店舗(直営店舗67、FC加盟店舗110)となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は1,864百万円(前期比3.5%増)、セグメント利益は204百万円(同50.7%増)となりました。

<不動産事業>

当事業につきましては、不動産賃貸物件の適切な管理に注力し、計画通りの売上推移となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は95百万円(前年同期比9.2%減)、セグメント利益は21百万円(同10.8%減)となりました。

<その他事業>

その他事業としてシステム等の外販事業及びメディア広告事業を運営しております。システム等の外販事業では、入会システム・会員管理システム等を販売しております。

メディア広告事業では、主に自遊空間店舗内外における広告営業やスマートフォン向けアプリの開発及びアプリを活用したサービスを実施しております。スマートフォン(iPhone、Android)向けゲームアプリ「どうぶつのオーケストラSMASH×SMASH II」、「がんばれ!ルルロロ レスキュー大作戦!」の2タイトルをリリースし、ゲームを遊ぶと自遊空間店舗がお得に利用できるクーポンが発行されるキャンペーン等を継続的に展開しております。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は115百万円(前年同期比38.2%増)、1百万円のセグメント損失(前年同期は2百万円の利益)となりました。セグメント損失の主な要因は、メディア広告事業におけるアプリ開発への投資が発生したことによるものです。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は、1,572百万円となり、前事業年度末に比べ95百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が58百万円、商品及び製品が22百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は3,385百万円となり、前事業年度末に比べ50百万円増加いたしました。これは主に、工具、器具及び備品が25百万円、建物及び構築物が20百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、総資産は、4,958百万円となり、前事業年度末に比べ145百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は、1,284百万円となり、前事業年度末に比べ20百万円増加いたしました。これは主に、未払法人税等が29百万円減少したものの、買掛金が47百万円増加したことなどによるものであります。

固定負債は1,625百万円となり、前事業年度末に比べ64百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金が70百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は、2,910百万円となり、前事業年度末に比べ85百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は、2,048百万円となり、前事業年度末に比べ59百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が61百万円増加したことなどによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、41.3%（前事業年度末は41.3%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想については、今後の出店計画や店舗売上高に与える影響や開発中の新製品及びサービスの運用時期の変動などの不確定要因があるため、現時点においては前回予想通りとし、修正は行っておりません。なお、数値が確定した結果、適時開示基準に該当し、開示の必要が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	792,164	850,391
売掛金	211,158	221,974
商品及び製品	189,517	211,694
原材料及び貯蔵品	42,486	39,349
その他	244,759	251,876
貸倒引当金	△2,197	△2,332
流動資産合計	1,477,888	1,572,954
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	986,977	1,007,350
工具、器具及び備品(純額)	298,247	323,909
土地	769,143	769,143
有形固定資産合計	2,054,367	2,100,403
無形固定資産	211,887	219,624
投資その他の資産		
敷金	847,711	848,774
その他	272,487	267,597
貸倒引当金	△51,574	△51,093
投資その他の資産合計	1,068,624	1,065,278
固定資産合計	3,334,880	3,385,306
資産合計	4,812,768	4,958,261

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	183,970	231,725
短期借入金	150,000	150,000
1年内返済予定の長期借入金	451,222	449,632
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	81,444	51,956
引当金	—	19,500
資産除去債務	9,250	—
その他	377,885	381,868
流動負債合計	1,263,773	1,284,682
固定負債		
長期借入金	1,103,232	1,173,925
資産除去債務	190,126	197,186
その他	267,480	254,314
固定負債合計	1,560,839	1,625,426
負債合計	2,824,612	2,910,108
純資産の部		
株主資本		
資本金	803,314	803,314
資本剰余金	841,559	841,559
利益剰余金	367,722	429,199
自己株式	△23,969	△23,969
株主資本合計	1,988,627	2,050,103
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△471	△1,951
評価・換算差額等合計	△471	△1,951
純資産合計	1,988,155	2,048,152
負債純資産合計	4,812,768	4,958,261

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年9月30日)
売上高	1,990,197	2,075,761
売上原価	1,684,470	1,679,930
売上総利益	305,727	395,831
販売費及び一般管理費	249,703	288,540
営業利益	56,024	107,291
営業外収益		
受取利息	585	539
販売手数料収入	18,705	4,233
その他	5,937	161
営業外収益合計	25,228	4,934
営業外費用		
支払利息	5,222	4,046
その他	973	11
営業外費用合計	6,195	4,058
経常利益	75,056	108,167
特別利益		
固定資産売却益	195	—
賃貸借契約解約益	5,392	—
特別利益合計	5,587	—
特別損失		
固定資産売却損	—	310
固定資産除却損	542	784
特別損失合計	542	1,095
税引前四半期純利益	80,101	107,072
法人税等	42,335	45,596
四半期純利益	37,766	61,476

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。